

令和3年6月 市長定例記者会見

令和3年5月31日(月)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいまより令和3年6月市長定例記者会見を始めさせていただきますと思います。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了の後、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思っております。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、まず挙手をお願いいたします。そして、ご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、ご質問の後はお切りいただきますようご協力をお願いいたします。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどよろしくをお願いいたします。

それでは、市長、よろしくをお願いいたします。

【市長】 それでは、6月定例記者会見です。どうぞよろしくをお願いいたします。

本日は6月議会の告示日であります。議会は6月7日から28日までの22日間という予定でさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

最近ですけれども、昨日は消防大会でお世話になりまして、その前の日には聖火ランナーが走ったということと、もう一つは、敦賀一高島連絡道路整備促進期成同盟会の設立総会ができましたので、しっかりと前に向くように進めていきたいというふうに思っております。

また、もう一つお知らせで、28日にありました消防大会の第46回福井県消防救助技術大会出場結果ということですが、6種目のうち3種目で敦賀市は1位を取ることができまして、また2チームが2位を取ったということで、近年ない成績でしたので非常に喜んでいるところです。去年は中止、今年は東近畿大会、全国大会、できるかどうかもちよっと分からない状況ですけれども、しっかりと日頃の技術を習得していただき、市民の皆さんの安全、安心につなげていただきたいと思いますと思っております。

それでは、どうぞよろしくをお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 それでは、発表項目は3項目ございます。

1つ目ですけれども、令和3年度6月補正予算の概要です。

今回の補正予算につきましては、国、県補助金の内示決定に伴うものや、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中小企業者等への支援など、早急に予算措置が必要となったものを計上いたしました。

まず、中小企業者等への支援につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化していることから、事業収入が減少している多様な業種の事業者に対して、事業継続を図ることを目的とした本市独自の給付金を昨年度に引き続き計上するとともに、資金繰りが悪化している事業者が県の新たな制度融資を活用した際の利子補給金を計上いたしまし

た。

また、コロナ禍の中でも安心してテイクアウトやデリバリーを活用し、家族団らんの時間を過ごしていただくとともに、これらの店舗等の積極的な利用を促し、飲食業等の支援につなげることを目的とした補助制度を創設します。

地場産業や漁業、飲食、宿泊事業者と連携し、コロナ禍により落ち込んだ観光需要の回復や地域経済の活性化を図ることを目的とした体験メニューの企画開発及びモニターツアー実施に係る経費を計上いたしました。

さらに、休業等に伴い収入が減少し、住居を失うおそれのある方に対する住居確保に係る給付金について、本市独自に再支給を行う経費を計上いたしました。

そのほか、補正予算の主な事業として、総務費では、愛発地区において地区住民の集いの場の提供やコミュニティ活動の展開を予定している団体を支援する経費を計上いたしました。

民生費では、公立保育園の昼寝に使用している部屋にモニターカメラを設置する経費を計上いたしました。

土木費では、国庫補助金の内示に合わせ、市道三島港線の道路改良工事費や新幹線駅周辺の道路整備に係る工事費を、教育費では、角鹿小中学校の駐車場整備に係る工事費を計上いたしました。

特別会計では、産業団地整備事業特別会計において、分譲事業者決定に伴い、分譲地売払い収入による県借入金の償還金を計上いたしました。

以上が今回の補正予算の概要でございます。

2番目としまして、令和3年度敦賀市職員採用候補者前期試験の実施についてですが、募集職種は、大学卒業程度の事務職、技師、保育士のほか、社会人枠として民間企業等経験者を募集します。

受付期間は6月11日金曜日から30日水曜日まで、第1次試験は7月25日日曜日にプラザ萬象で行います。第2次試験は8月下旬、最終合格発表は9月上旬を予定しております。

職員募集に当たっては、定員の適正化を念頭に、定年退職等による人員補充、各年度における採用バランス等を考慮するとともに、就職氷河期世代を含めたI J Uターンの推進及び即戦力となる人材の確保のため社会人枠を設けております。

3番目ですが、令和3年度敦賀美方消防組合職員採用候補者試験を実施します。

本日、5月31日に公告し、ホームページに掲載します。

受付期間は8月2日月曜日から20日金曜日まで、第1次試験は9月19日日曜日に消防本部で行います。第2次試験は10月下旬、最終合格発表は11月中旬を予定しております。

職員募集に当たっては、消防力の強化を念頭に、各年度における採用バランス等を考慮し実施することといたしました。

発表項目は以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目につきまして質問をお受けしたいと思います。最初に幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 まず、公立保育園のカメラ設置なんですけれども、詳細はともかくとしまして、このような設置をしなければならない事態となったことについて、市長のお考えをお願いしたいのが1点。

もう1点は、今回の補正予算の中に、リラ・ポートの指定管理者の選定について、選定委員会の予算も計上されていましたが、今後の市民の一番の関心事であります再開時期の見通しなどについてお願いいたしたいと思います。

2点お願いします。

【市長】 公立保育園のカメラの設置の背景とすると、皆さん御存じのように、本当に敦賀市としては恥ずべき不祥事があったということで、本来は安心してお子さんを預けるべき保育所においてそういうことがあったということは、非常に申し訳なく思っておりますし、二度とこういうことがないようにしっかりと対応していきたいというふうに考えています。

それから、リラ・ポートの再開につきましては、予算の中で検討していく中で再開時期が明らかになっていくもので、今はしっかりと確定していないということでもあります。

【秘書広報課長補佐】 ほかによろしいでしょうか。

それでは、各社にお伺いいたします。発表項目につきまして質問がございましたら挙手のほうをお願いいたします。

【記者】 保育園のカメラの設置の件でお伺いしたいんですが、まず、どういう原因分析をしてカメラを設置するということに至ったのかということと、設置することによってどういった効果を期待するか。そして、これが応急的な対応なのか、恒常的にずっと設置していくのかを、3点お伺いしたい。

【市長】 まず、問題行動があった場所というところを押さえていく上で、昼寝をする場所というところにカメラの設置が一番大事だろうというふうに考えています。

それから、このカメラの設置が対策の終わりではなくて、順次必要なところに気がつけば対策を打っていかなくてはいけないというふうに考えていますが、まずはこのカメラの設置を急ごうということを進めています。

カメラは恒常的に設置する予定です。

【記者】 前回の記者会見だったと思いますが、2人体制でシフトを組むというようなお考えもあるということをおっしゃっていたかなと思いますが、それはどうなったのかということと、カメラを設置するというのは、職員さん1人のときでも監視の目というか、後から検証できるように設置するという、そういう狙いでいいのかということをお伺いしたいんですが。

【市長】 お昼寝のときには2人いるというのが基本なんですけれども、休憩をしたりトイレに行ったりと、1人になる時間がないわけではありません。また、そういう時間じゃないと逆にいけない時間というのがありますから、カメラを設置することで、そしてまた、そのカメラが事務所から見える体制を取ることでそういう行動を抑止できるというふうに考えています。

【記者】 中小企業の支援についてなんですけれども、概要の中を見ますと、給付金として40万、20万というふうな形で給付されるというふうになってはいますが、これについて何か対象となる条件というか、継続的に今年もやるということではあると思うんですが、売上げ上の何か設定があるとか、その辺というのはどういう形でしょうか。

【産業経済部長】 対象ということですが、現在考えておりますのは、中小企業法の法律にのっとった企業でございまして、敦賀市に本社機能を有するもの。そしてまた期

間なんですけれども、令和3年1月1日から今年の7月31日までの間で任意の継続する3か月、これを前年、令和2年と令和元年のいずれかの同時期と比較して20%以上減少するというものを現在考えております。あと、今年の1月以降に事業を開始したものは除外とさせていただきたいと考えております。

事業開始期間が令和2年5月2日以降で期間の比較できない場合というのも、令和2年12月31日までの売上平均額として比較していきたいというものでございまして、なるべく申請しやすい状況、昨年の状況とかをいろいろ見ながら今年度の事業をやりたいというふうに考えております。

以上でございます。

【記者】 ちょっと確認をさせていただきます。

令和3年のところでの現時点までのところの中での任意の3か月と、それから令和2年、令和元年、両方に遡ったところとの比較ということでしたでしょうか。

【市長】 設計するのにいろいろ考えたんですけれども、今年継続して困っているところをどうしたらいいのかというところなんです。ですから、今年の1月から7月までの任意の連続した3か月を取って、その金額が昨年もしくは一昨年の同時期よりも2割以上下がっているところ。どちらかでいいんですけれども。それが補助金とかを入れてしまうと去年の金額が分からなくなりますので、補助金とかを抜いた金額で比較したときに、令和元年度からすると継続して悪い、令和2年度からしても下がったというところがあるのであれば、それは救いたいなという趣旨の中の設計です。

【記者】 ということは、敦賀市独自として、コロナ禍前、コロナ中、そこも対象として両方を比べたところでもマイナスになっていたりとか売上げが厳しいというところに対しての救済措置ということで、少し条件的なところは幅広く設定したというような考え方でよろしいのでしょうか。

【市長】 はい。幅広く取ったつもりなんです。それで救えればいいなというふうに思っています。

【記者】 では、関連してなんですけれども、いろいろとコロナ対策として中小企業に対しての支援策というのを幾つか今回盛り込んでいるかなと思うんですが、継続しているものと新たに始めるというものはどういう内訳になっているか、その辺の考え方も含めて教えてください。

【産業経済部長】 今回、補正予算で上げさせていただきました産業経済部関係では、今申し上げた給付金を含めまして4つの事業を考えました。

まず1つは、当初予算で利子補給金を計上しておりますけれども、これは今年度4月から新しい利子補給金というのが国、県で新設されましたので、そちらの利子補給がまず1つ。

あと、テイクアウト、デリバリーの促進事業費というのを今回計上させていただきました。こちらにおきましては、昨年度も実施しましたお弁当のテイクアウト、デリバリー、そういったものを市民の皆様にご活用いただきまして、家庭内での昼食とかをそういったデリバリーでも取っていただけるというのが浸透してきたところです。今後は飲食店、外食を控えているという、そういった家庭とかそういった方々に対しまして、例えばオードブルに対して促進するために、事業者を通して支援するというところで、消費の拡大とか市

内経済の活性化をしていきたいというものでございます。

そして3点目なんですけれども、業務の拡大と業務転換の促進支援ということで、アフターコロナまで見据えた社会環境に適応したいということでございまして、必要な事業者、例えば他方面への業務転換、免許を取ったり、飲食店の方々がキッチンカーなどを牽引してデリバリーをしたりといったときに、牽引の免許とかそういった事業転換とか業務の拡大について支援するというものを考えました。

あわせて、先ほどの中小企業者継続の支援給付金、こちらの4事業を産業経済部としては今回補正予算で計上させていただいたものでございます。

以上でございます。

【記者】 リラ・ポートについてなんですけれども、まだ再開時期というのはこれから決めていくということだと思うんですが、あり方検討委員会で大体の方向性というか方針というか、そういうのは一応市としても議員方に対して示したところかなというふうに思うんですが、今後の進め方についてはどういうふうな順序立てで再開ということまで進めていくおつもりでしょうか。その辺をお聞かせください。

【観光部長】 6月補正で上げさせていただきました指定管理者選定に係る委員会経費の補正予算、これが可決されましたら、選定委員会を設置をいたしまして再開に向けての準備を進めていく予定ということでございます。指定管理者の募集要項の作成等を順次行っていきたいということでございます。

【記者】 6月議会で、委員会でその予算が承認されれば、早速その選定委員会を立ち上げて募集に対しての要項を進めていくということですか。

【観光部長】 はい。

【記者】 分かりました。

【記者】 リラ・ポートに関連して、2つの委員会から報告書が出て、再開の時期はまだ分からないですけれども、一応スタート地点、ビジョンは見えたと思いますが、2つの報告書を受けて新しく始めるに当たって、市長として、これまでの運営の在り方とかというのをどういうふうにいま一度振り返って考えて、新しい施設をどういうふうに運営していきたいかという考えをお伺いしたいです。

【市長】 今回の報告を受けて、取りあえず指定管理者でやっていくということがいいんだろうということで進めていきたいと思えます。

指定管理料につきましては、増額した形で1億前後という数字が出ておりますが、その数字とコロナを合わせたときにどうなのかということが今は分かりませんので、それを合わせた数字がどういう数字になるかということを進めていかななくてはいけないというふうに思っています。

あと指摘がありましたのが、それぞれの企業の資本金というか、資本力が弱かったんじゃないかというご指摘を受けました。そこについて、やはりしっかりと検討して、また常にその辺を調査できるような体制を取りながら進めていくことが必要だというふうに思っています。

【秘書広報課長補佐】 ほかによろしいでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと移ります。幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 まず1点目は、JR西の小浜線半減の検討についてのお考えをお聞きしたいと思えます。

特に駅西の起工式のときたかにも市長はおっしゃっていましたが、嶺南地域の特産を集めたブースがあったりして、敦賀から嶺南を回ってもらうということも考えておられた中で、小浜線がないとそれの一つの二次交通がなくなってしまうということになってしまうと思うんですが。

2点目は、またちょっと原子力で聞きたいんですが、まずは小浜線をお願いします。

【市長】 そうなんです。小浜線がなくなるわけじゃないので、あくまでも減便だというふうに聞いておりますし、担当課がJRから受けた説明では、朝夕の通勤通学の時間帯はしっかりと残すというふうに聞いておりますので、通学に影響がないか、地域への影響はないか、最小限でとどめていただけるようにしっかりと要望していきたいというふうに思っています。

また、新幹線が来たときの準備として観光列車を乗り入れたりしておりますので、そういうことについては、なくなるわけじゃないので、これからもやっていきますので、そういう中で観光ルートをしっかりと確立していかなくてはいけないというふうに思っています。

ただ、コロナによって減便して、なくなったら戻るといふ、そういうお話ではないみたいですので、どうやったら利用促進、また増便していただけるかということのを改めて知恵を絞って、みんなでお願ひして進めていきたいというふうに考えています。

【記者】 小浜線でちょっと補足なんですけれども、朝夕の通勤通学は残ると。もともとシミュレーションの中でも30人以下だったので。ただ、やっぱり日中とかが、より観光利用であったりとかいうところになると思うので、その辺のためにも今後、乗って残す運動的なものとかであったり、そういったものはどんなものを敦賀市としては考えられるのかというところをお聞きしたいんですが。

【市長】 敦賀市というよりも嶺南市町という形になると思うんですが、沿線全体で経済界、市民団体も巻き込んで実施する必要があると思っていますので、県、嶺南6市町に加えて、経済界や市民団体、交通事業者が委員に入っています小浜線利用促進協議会や嶺南地域公共交通活性化協議会というのがありますので、利用促進策についてみんなで協議していきたいと考えています。

【記者】 次に、原子力関係で2つお聞きしたいんですが、美浜が40年超、再稼働が6月22日に迫ったということでの、新しい原子力の動きということに入るといふので、そこについてのご所感をお願ひしたいのと、あわせて、エネ基の改定が夏頃と言われていふんですが、先月に全原協からもいろいろな要請が出されていふんですが、改めてエネ基改定に際して要望というか思いをお願ひしたいと思えます。

【市長】 美浜のほうの運転再開ということですが、40年を超える運転となることから、規制基準への適合に必要な許認可に加え、運転期間の延長の審査基準に基づいて特別点検の実施や劣化状況の評価なども行い、原子力委員会の認可を受けているというふうに理解しています。また、関西電力としても、通常の定期検査では行わない技術系社員、協力会社、メーカーによる起動前総点検を行うなど、強化した体制の下で徹底して安全確認を行っているというふうに聞いておりますので、その中で万全の状態での再起動に臨んでいただきたいとい

うふうに考えています。

エネ基のほうですけれども、エネ基は、全原協や立地協としましても、新增設やリプレースを含めた原子力発電の将来の在り方を明確にし、国策として長期的視点に立った確固たるエネルギー政策を示していただきたいということを要請しています。

また、自民党からも、温室効果ガス46%削減という目標実現に向けて、原子力発電の活用に関する提言がなされていると承知しておりますので、国としてこれらの提言を十分に踏まえ、エネルギー基本計画の中で立地地域が将来像を描ける原子力政策の方向性を明確に示していただきたいと思っていますし、私個人としては、しっかりと新增設、リプレースを入れていただきたいと思っています。

【秘書広報課長補佐】 ほかに、幹事社さん、よろしいでしょうか。

それでは、各社にお伺いいたします。ご質問がございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 今の市長のお答えについて、個人的にリプレースと新增設を入れてほしいということですが、これは具体的に、特に新增設については敦賀3・4号に踏み込んでほしいということを意味しているのでしょうか。

【市長】 敦賀3・4号を書いてくださいという意味ではありませんけれども、新增設、リプレースということを文言の中に入れていただきたいというふうに思っています。その中に3・4号機は含まれるというふうに理解しています。

【記者】 別件で、新型コロナウイルスのワクチン接種についてお伺いしたいんですけれども、65歳以上の集団接種も始まって、結構進んできているのかなというふうに思うんですが、今いろいろと接種のタイミングとか予約の割り振りとか、そういうのも見直しながら進められているような状況がうかがえるんですけれども、まずは市長、その現状について、これまでの進め方というか接種の状況について、スムーズに行っているかどうか、その辺の所感をお伺いしたい。まずはそれをお聞かせください。

【市長】 5月からスタートしましたけれども、接種の状況につきましてはスムーズに行っているというふうに思っています。大きなトラブルもないですし、アナフィラキシーとかそういう副反応のことも問題になっておりませんので、いい体制になって進んでいるというふうに思っています。

予約につきましても、27日までの予約の締切りでしたけれども、65歳以上で85%ほどの予約をしていただいていますので、枠の中で収まっております。あとは、政府のほうで7月中にということをおっしゃっていますので、前にずらせる人は、枠をちょっと広げたりしていますから、ずらす希望がある人たちに対しては対応しながら、2回目が7月末までに終わるような体制にしようと思っていますが、強制するものでもありませんので、緩やかにやっていきたいと思っています。

【記者】 では、今の予約の受付状況の感じで言うと、その対象者については7月中には大体完了できるかなというめどが立っていますでしょうか。

【市長】 私どものもくろみとすると、大体7月中に終わると思っています。

【記者】 続けて、今、接種した人数とかが分かれば教えていただきたいんですが。

【福祉保健部長】 5月30日、昨日現在ですけれども、集団接種で1,042名、個別接種で2,316名の計3,358名の方が1回目の接種を終えられているというふうな状況でございます。

1回目の接種率といたしましては約17%というところでございます。

【記者】 ありがとうございます。

加えまして、64歳以下について、例えば接種券をこのあたりで送付したいとか、その辺のスケジュール感など、もし何かありましたら教えていただけますでしょうか。

【福祉保健部長】 64歳以下の接種につきましては、今のところ、今後、優先の基礎疾患のある方であったりとか、60から64歳までとか、そういった順番とかもございしますが、そういったところも含めて、時期等についても検討中というところでございます。

【記者】 国のほうでは、基礎疾患あるないにかかわらず同時進行でやっていくような方向性みたいなニュースもありますけれども、その辺についても敦賀市としては現時点では検討中ということよろしいでしょうか。

【市長】 それがあまりしっかり分からないものですから、どこまでそういうふうにするのかというのがないので、基礎疾患の方を先に行き、次に64歳以下ということの段取りなんですけれども、どのくらい交ぜたらいいのかというのが分かればもう少し検討が深まると思います。まだ今、検討中です。接種券の送付は一応6月中にはやりたいと思っています。できるだけ早められないかとか、本当にできるかとか、今、検討中です。

【記者】 原子力の話に少し戻っちゃうんですけれども、先ほどは全原協会長としてエネ基に望むこと、あと、個人としては敦賀3・4号の増設も希望すると、書き込むかどうかは別として増設を希望する思いがあるというふうには認識したんですが、敦賀市長として、市の産業構造とか経済を考えた上で、敦賀3・4号機が増設されるということがどういう意味合いを持つというか、産業の中でどういうパーツになるか、というふうを考えていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 まだ今、エネ基の中に、3・4号機でなくて、新增設、リプレースを盛り込んでいただきたいというのが希望であって、盛り込まれて初めて敦賀でそれが実施できるかどうかという検討になると思います。そこから設計とか規模感とかになっていきますので、産業構造のどこに織り込まれていくかというのはなかなか難しい答えだと思います。

私ども敦賀は水素をやっていますので、水素に関しての原子力の夜間電力、余剰電力というのは魅力的ですし、そういうところで生かしていけたらいいなと思いますが、今はちょっと何とも答える時期ではないのかなというふうに考えています。

【記者】 どれだけ具体的に3・4号機増設というのを希望しているのか、ちょっと分からないですけども、市の産業と経済から逆算して増設を希望するとか、そういうわけではないということですか。

【市長】 そうですね。

【記者】 新型コロナに関連して、またちょっと別件でお願いいたします。

中郷小学校のクラスターがあったと思うんですが、なかなかその原因についてというのは不明で、そこを突き詰めてもなかなか分からないというような状況が続いていたように思うんです。クラスターということで、結構学校の中で広まったということは確かということで、その広まり方というか、何が広まった原因だったのかというところ、その辺が分かれば教えていただきたい。また、そういうことが見えたことに対して、各学校に対して何か蔓延防止というか、対策をこういうふうにとったほうがいいとか、そういうふうにか進めていることがあれば教えてください。

【福祉保健部長】 中郷小学校の新型コロナウイルスの集団発生というところですけども

も、詳細な調査といいますものは県のほうがやっております、市では調査ができていない状況でございますので、申し訳ございませんが、どこが原因でどこからの広がりというのは把握はしておりません。

【市長】 今のが正式な話なんですけれども、私を感じるの、一つは、無症状だったんですね、子供たち。ですから最初の広がりが分からないんです。その中で体調の悪い子が出てきて、初めてそこで調査したらもう既に広がっていたというのが現状だと思います。

変異株じゃなかったときには経路が確認できたりしましたがけれども、最初に見つかった子の家族には全然うつっていませんので、そこじゃないかと。じゃどこだろうということ分からないんです。本来は、どこから入ってきてどこまで広がったのでこれを抑えましょうという話になるんですけれども、どこまで広がっているのか分からないので、家族を調べても分からない。福井県の場合は全員を検査していただきますので、教職員、また生徒、全部検査していただきました。そしてその家族も検査していただいて、広がりをずっと抑えていったのがよかったんだと思います。

ですから、次の対策というのはなかなか難しいんですけれども、マスクを外したときにうつるというので、マスクで会食が出ていますが、それを信用してやるしかないと思います。次に出たときにもそういう同じような感じで広めに検査して、そこで抑え込んでいくという作業が必要なんだろうと思います。一番最後に、学校が始まる前にもう一回、全員検査していただきまして、あれでまた数人出ました。陰性が出てその後陽性になることもみんな知っていないと、陰性だったからよかった、どこでも行っていいんだというふうに思ってしまうと、そこで感染が広がってしまうということをしかりとみんな認識しなくてはいけないなというふうに思っています。

ちょっと雑駁ですけれども、そういうふうに思っています。

【秘書広報課長補佐】 ほかによろしいでしょうか。

それでは、これもちまして6月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後 2時 7分 終了